

風土記の丘の花だより³²⁵

今、そしてこれから見られる植物(2026年6月14日)

変な言い方ですが、今年の梅雨は梅雨らしいですね。台風も重なりましたが、よく雨が降ります。被害が出ない程度にたくさんの雨が降ってほしいものです。谷山家のアガパンサスは10日現在、咲きそうでまだ開いてくれません。はやく爽やかな水色の花を見たいものです



万葉植物園の入り口の右側にヒトツバハギの花が咲いています。といっても、花らしい花でもなく、鑑賞価値があるかといえば、それもどうかと思ってしまいそうな花です。でも、いつでもどこでも見られるという植物ではありません。名前にハギと付きますが、花を見てもわかるように、ハギの仲間ではありません。少し前まではトウダイグサ科に分類されていましたが、今はコミカンソウ科という事になっています。この植物のように、分類体系が変わったため、科が変わったものは少なくありません。



続いて花らしくない地味な花です。これはアカメガシワの雌花です。「赤芽」という名前の由来が分かるような花を探して撮りました。新葉が赤いのでアカメ、カシワはご飯などを包む大きな葉を指す言葉です。雄花はここまで地味ではなく、丸いぼんぼりみたいな感じです。この木は上のヒトツバハギと違って、油断していたらどこにでも生えてくる木です。風土記の丘は言うに及ばず、本当にどこでも見かけます。鳥が種子を運ぶのでしょうか。ありふれた植物ですが、みんな平等に愛でてあげたいですね。



風土記の丘では、多くのキキョウはまだ小さなつぼみの状態ですが、万葉植物園で少しあわて者の株を見つけました。今にも咲きそうでした。加賀千代女のこんなかわいい俳句があります。「桔梗の花 咲く時ぼんと 言ひそうな」いかがですか？本当にそんな想像をしてしまいますね。また、そうだったら楽しいですね。この花も人知れず「ぼん」という小さな音とともに開花したことでしょう。秋の七草といいながら、6月の下旬には咲く花です。今年もたくさん咲いてくれることを期待しましょう。



新館建設の工事が進んでいます。その工事現場周辺を観察しました。するとクマツヅラの花が見つかりました。薄紫色の小さな花です。私はこの花を風土記ではこれまで見たことがありませんでした。工事で周辺の環境が変わったからでしょうか。リストにかわいい花が一つ増えました。工事現場だけでなく、園路沿いにも生えているかも知れません。散歩しながら、探してみてください。 松下